

常磐文藝

這兒

飯村 閑舟

「兄は實」
成長の腕を
待ちつゝ、
頬を笑みつゝ、
心に待ち
あこがるゝ
親御の
苦勞心配を
知る由もなく
無邪氣な
兒供等は
徒戯に
紛れて
坐山戯るもの
泣くもの
弱者を
毆る兒等
意義幾々の
演出よ
その喧噪の
巻より
脱兎して
八幡宮の
境へ
通れ去れば
小さき溜池に
板舟を
繰つて
騒ぐ子供の
興味ありげに！
傍の
砂地を望めば
お守兒の
手を離れた
三四才兒が
四ッ這ひに
なりつゝ
何か口に
獨囁いてゐる (完)

△土地建物

賣買并ニ是ニ關ス
ル萬般ノ御相談ニ
應ズ

△床板、床縁

落掛

澤山新荷着

◎大谷石本場一等

品寸法御望次第

磐城建物

株式会社

平町五丁目
電話五一八番

の求に應ず

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

毒氣ある身體にて
た困りの御方は
毒退丸、効能を
試みられよ!!!
効能としては梅毒、痔病
胎毒、淋病、消渴、癩麻
質斯等凡て毒氣ある身體
に特效あり
石城郡内郷村小島
毒退丸販賣本舖
山下重愛堂

☑ 其他全國到處
に特約店あり

●社告

初冬の候彌々御清祥奉賀上候陳者今
回正喜社と稱する廣告取次業を創業
弊社關係の廣告掲載に關し貴意を得
たるやに仄致し候處右は弊社と絶
對關係無之且つ正喜社經由の廣告は
一切掲載致さず候に付右に御諒知の
上倍舊の御後援賜はり度懇願候也
尙ほ正喜社は弊社以外各新聞の諒解を得たる旨
宣傳致し居り候趣に御座候へ共報知、東京日々
東京朝日、時事、國民の各東京新聞社支局等も
全々同社とは關係なきのみか協定したる覺えな
しとの事に候間此段念の爲め併せて御諒解願上
候

いわけ新報社

磐城日々新聞社

磐城新聞社

常磐毎日新聞社

いはらき 福島民報 福
島民友 福島新聞 平支局

製材機械、人魚印丸鋸

自動注油メタル、プーリー在庫
ゴムベルト、バラタベルト

平町月見町

佐藤鐵工所

電話三六二番

霞ヶ浦名産 焼ワカサギ 大海老

賣初めました
白魚ワカサギの
生ものも注文に應じます
平町二丁目
平館前 笹目分店

丸登株式会社

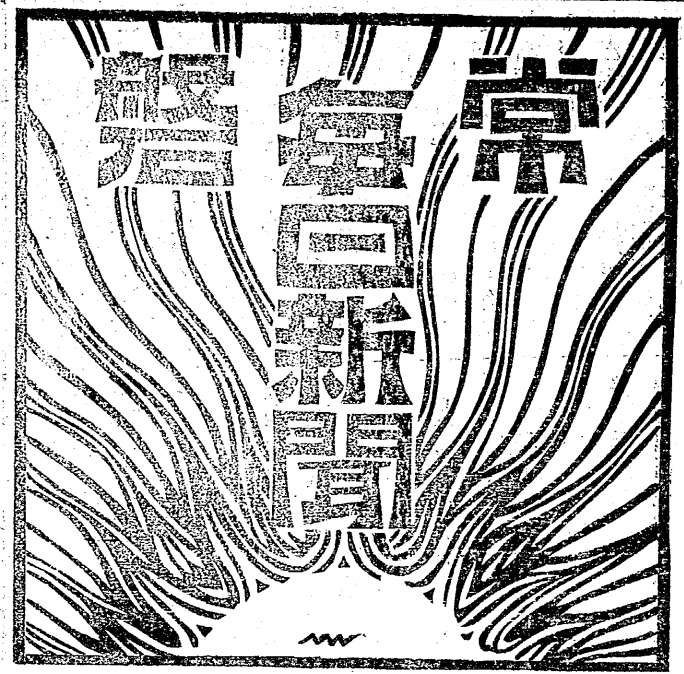
平町田町電話三三二番
福島縣石城郡平町
字長橋町川五番地
常磐毎日新聞社

株式買中値

左記の値段は今日の標準値
に付御用の節は御問合願候
銘格 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	三〇〇	二七〇
田村實業	一一五	一二五
四倉銀行	一一五	一二五
農工銀行	二〇〇	二五五
同 新	一五〇	一九〇
同 新	五〇〇	五三〇
同 新	一一五	一四五
七七銀新	一一五	九五
郡山電氣	五〇〇	三八〇
同 新	二五〇	七七
只見川電	一一五	六三
植田水電	一一五	一三五
好間水電	一一五	一三五
磐城建物	一一五	五五
磐城製菓	二〇〇	六五
平信託	五〇〇	四五〇
磐城物産	一一五	一三五
平製水	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
小名商學	一一五	……
小名水産	一一五	……
小田炭礦	二五〇	五五
磐城炭礦	五〇〇	三七五
同 新	二二五	一五〇
同 新	五〇〇	九一〇
同 新	一一五	三二〇

(一) 可認物便郵三第日十月一十年二十正大



刊夕日十月二十

價定 一部金貳錢 月極
ニ限リ一ヶ月卅錢
料告廣 五號十三字詰
一行五十錢
日刊休 日曜 大祭
祝日の翌日
所刷印 福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社印刷部
編輯兼 川崎・文治
印刷人
發行兼 川崎・文治
所行發 福島縣石城郡平町
字長橋町川五番地
常磐毎日新聞社

新聞製作者

てとし川崎君 (二)
磐城新聞 柏木 哲
所謂「新聞格」に對
する氏の自信

所謂新聞格に對する川崎
君の自信なるものを忖度説
述するに方り順序として新
聞格に對する私の觀念を云
はせて頂き度いと思ふ。
——惟ふに現代は言論無視
の時代である、一段半の大
言論も讀者に何等の反響
を與へない(多少の議論は
めらうが)言論を讀む程の
人は今の言論を讀んで其鳴

し得る以上進んだ、寧しろ
日目の報道を讀んで社會の
趨勢を知らんとして居る、
故に言論は左程重きをなさ
ないことゝなつた、随つて
其報導には侮るべからざる
潜勢力がある、讀者はその
報道を讀んでその新聞の態
度を批判することゝなつた
故に言論によつて對社會的
方針を樹立した時代はすで
に去つて報導そのものが對
社會方針を示すことゝなつ
た。報導の材料はもとより
一片の事實である併しなが
ら人間の頭を通じて書かれ
る場合必ずそこにその人の
思想感情が反映する、斯く

の如くして書き集められた
報道は更に編輯者の思想感
情によつて整理される、或
るものは捨てられ或るもの
は加筆され或るものは大き
く或るものは小さく取扱は
れて讀者の前に提供される、
口に不偏不黨を標榜し報道
本位を以て社是とするも斯
の如くして作られたる新聞
に果して特殊の色彩が無い
といへようか
對川好君の本論はこれか
らである



平地方の金融状態

今迄は平靜を維持したが、寧ろ明春頃が氣遣はれる

平地方に於ける金融状態は既に無風状態を脱離した模様で去月末は可成繁忙を示したが本月末の成行に付いては大分氣遣はれてゐる兎に角今日迄に平靜を維持して來た事は政府及び日銀の救済策にもよる事勿論であるが更に

小學談話會

來春中旬に

△銀行業者の警戒が嚴重なる事△一般商取引の減退△信用破綻の爲め現金取引が多く爲めに銀行業者の取引が減退せる事△其他配當資金の需要等であるが銀行の警戒は依然嚴重であつて年末を控へて更に此傾向に向はる事であると雖も本年末は案外平穩に経過するだらうと見るものが多い、而し一方復興資金の需要等も起る事

昨曉！猛炎！

舊城跡を一嘗めとす

蠶業講習所跡附近の火災

既報平消防組にては昨曉四時を期して警鐘一點打を合圖に組員の非常召集を行へ水利最も不便なる舊城跡の蠶業講習所跡附近より出火せるものとの假想に基き直ちに各組員は消火栓を始めとして蒸氣、ガソリンの各係夫々擔任の部署に着き轟く煙火を發火合圖とし掛聲

入山炭礦の白骨

其數は五十個

石城郡湯本町入山炭礦が工事中戊辰役の戦死体らしき白骨發見せるは既記の如くであるも其後續々現はれ其數五十個に及んだ場所は同町大字湯本字臺の山卅一番地で同炭礦が難用水溜池と

元運輸係長の舊惡露見して召換

古河炭礦の被害莫大

石城郡好間村居住元古河炭礦運輸係長中澤某は此程平警察署に拉致され嚴重取調を受けて居るが其内容を仄聞する處に依れば同人は運輸係長主任として在職中一部の使用人と結託して實際勞務に従はなかつた労働者を出役したるもの、如く報告し同炭礦をして根據なき支出を爲さしめ少なからず不正の利を着服したるに在る如く取調の進行に伴れ關係者への火が可なり擴大するらしいと

子供を殴つて

暴行罪二人男

平町字立町菓子製造業廣瀬甲作(三九)は去月廿九日午後三時頃同町岡野長四郎長男竹夫(一二)が偽にゴム鐵砲と稱する玩具にて自分飼養のシヤモの雛を打つたと

眞性慾問題

胎盤の營養が終つた瞬間に乳の泉は豊かに溢れ出づるのである。考へて見れば不思議といふ外はない。處女が彼女自らの白き胸に手を置く時、女性の力と誇らしさを最も強く感得するであらうと思ふ。最も重要な女性の標徴は以上の性器管と乳房の二つであるが、此の他に全身を通じて所謂「女らしさ」に至る所に現れて居る此は從屬的性徴で或は生活風習の異なるに従つて著しく變化するやうな場合も少くない、先づ頭の先から始めて身体中のあらゆる部分を見て行から、全体の体格に於て女は一般に小く、弱く出来て居る、骨も細く肉も柔か、何となく圓みを帯びて居る、皮膚も薄くしなやかで、皮で脂肪は女の方が多、大体に於て体重も胞圍等も男に劣るのが通則である、女性の安逸を保證してやるやうなものである。頭も女は小さい、頭蓋の内腔即ち脳味噌のあり場合も男に比べると容積が少い(續)

常磐片々

古河炭礦の元運輸係長が幽霊人夫の一件で平署に召喚運ヨク免れて居たのが不思議な位だ
來春小學兒童が磐中主催で壇上に獅子吼
飽迄可憐味を失ふな

此頃の暖い

直ぐ寒くなる
此二三日以來平地方は冬には珍らしい暖かさ続き

して掘下げ土取中地表から五尺位の箇所に見られたのであつて同町惣善寺に埋葬した由

力

工女に讀書を

石城郡大浦村製糸工場力進社にては工女の智識慾に添はんが爲め先日から夜學を開始し算術、珠算、讀書、綴方、裁縫等を教へ渡邊支配人飯島夫妻の諸氏が其衝に當つて居ると

震災避難民

總計千七百餘

石城郡内に避難し來れる震災罹災民は總計千七百五十九人で此内失職者は三百七十三人である

野球理事會

石城協會協議

石城野球協會理事會は八日午後六時からいはらき支局樓上に開會過般のリーグ戦成績發表の件、決算報告の件、優勝旗の件、運動場設置の件、協會の總會開會の件其他を協議した

會津人會寄附

石城郡在住會津人會にては東都震災に際して在會津津人の罹災者に對して義捐金七十一圓を募集舊藩主松平子爵に宛て、此程寄贈した

不平受付

投書歡迎

本紙運延理由 私に貴紙の愛讀者で毎日配達される夕刊を楽しんで待つて居るので、私の家に配達される時間はいつでも午後八時頃になります、もし何んとか早く配達される様に出來ないものでせうか、如何

平町人事

出生

△紺屋町 安初吉二男孝一

△死亡

△搔樋小路 樋口ヨシノ

(三)

(二)